

■ 市政・県政の気になる動き

《埼玉高速鉄道の岩槻延伸計画について》

開業当初から運賃の高さが指摘されてきた埼玉高速鉄道ですが、多くの沿線住民や利用者の方の声を受けて、川口市とさいたま市、埼玉県が債務免除等も行い、単年度黒字化の実現を経て、通学定期券の値下げ等を実現してきました。

わたし木岡も、川口市北東部の発展には、埼玉高速鉄道の活用が欠かせないとの視点から、運賃や定期券の値下げについて、提案を繰り返してきました。

しかし、ここにきて、気になる動きがあります。埼玉高速鉄道を浦和美園より北側の岩槻駅まで延伸する計画についてです。現在、さいたま市が引っ張る形で議論が始まっておりますが、川口市民からするとデメリットしかないと感じております。

無理に岩槻への延伸を進めれば、定期券や普通運賃の値下げが遠のくことになりかねません。

◆木岡の考え◆

首都圏の人口集積地の路線でも減便などが迫られる中で、埼玉高速鉄道を人口減少地域である岩槻まで延伸するメリットは見出せません。**延伸に反対していきます。**

また、延伸協議の際には、川口市民や既設区間利用者にとって、不利益が生じないように、市としての意向を伝えるよう市議会でも求めました。

◆調べてみると・・・

- 岩槻区の将来人口予測は、今後10年間で約9,000人減
- JR東日本は、輸送収入がコロナ前に回復することは難しいと見込み、首都圏各線の減便や鉄道事業の職員を削減
- 東京メトロは、利用者の回復が見込めないことなどを理由に、8月末から主要4路線の運行本数を平均7.8%削減

【要望活動中!】

《武蔵野線の東川口駅・東浦和駅・南浦和駅のホームドア&暴風雨壁の早期設置を》

武蔵野線の東川口駅、東浦和駅、南浦和駅には、ホームドアの設置がされていません。

ご利用者の安全性のためにも一日も早い設置を求めています。JR 東日本は、2031年度末までの整備予定との回答にとどまっております。

10年近く先では遅すぎると思います。こうした市民の安全向上に必要なホームドアの設置こそ、市が補助金を出してでも優先的に取り組むべき施策だと引き続き提案していきます。

また、防風壁の無い東川口駅のホームは、風雨が激しい日は、電車が来るまでホームに上がることをすらためらうほどひどい状況です。

東川口駅への一日も早い防風壁の設置についても求めています。

《夜間の学校施設の利用時におけるエアコンの使用について》

現在、小学校・中学校などの体育館を地域で活動されている団体に貸し出しておりますが、その際に、エアコンがあるのに『夜間体育館利用団体』には使用が禁止されている実態があります。

今年の夏も本当に暑く、夜になっても25度を下回らない熱帯夜が多くありました。運動をされる市民の健康を考えても設置されているエアコンを使用するなどという合理的理由は全くありません。利用規定を整備して使用できるように提案しております。

◆離党について

わたし木岡は、2017年に「草の根からの民主主義」を掲げて結党した立憲民主党に、より良い社会を実現するチャンスだと思い入党しました。しかしながら、最近の政党の紆余曲折から、私の政治信条とのズレが生じたため、立憲民主党を離党いたしました。立憲民主党だからと応援いただいた皆様、ご期待に添えず大変申し訳ありませんでした。

川口市議会議員 46歳

木岡 たかしの熱い想い 市政レポート

Vol.41 2022.10

発行責任者 木岡たかし

〔連絡先〕

川口市東川口2-4-16

TEL 080-1244-3769

Mail takashi@kioka.info



税金の使い道 徹底的に監視します!

子育てにお金のかからない街にします!

高齢者が安心して生活できる街を実現します!

【いま政治に求められること!】

いま政治に求められていることは、予算配分の優先順位を間違えない事であると思います。地方自治体では予算を無尽蔵に捻出することはできませんから、今ある予算の中で、どの施策に優先的に税金を投入することが市民にとって最善なのかを、しっかりと判断する必要があります。

■ 2022年9月市議会定例会 一般質問

! 子育てにかかわる木岡の提案

1. 小中学校の給食費無償化を

いまの急激な物価高の中で、給食費（子ども2人なら年間9万円程度）が無償化されれば、子育て世帯の家計が助かるだけではなく、無償化された分の多くが消費に回り、地域経済の活性化にもつながります。

(2Pにつづく)

目次

- 2022年9月市議会定例会一般質問 P1-P2
- コラム ～子育て支援は全世代のため～ P2
- 川口市の財政状況について知ってください。 P3
- 市政・県政の気になる動き P4
- 要望活動中! 他 P4

木岡たかし [profile]

木岡たかし 検索

木岡崇。1976年（昭和51年）3月26日生。専修大学法学部卒業。家族は、妻と娘と息子。

参議院議員の公設秘書を7年間つとめる。

建設会社勤務をへて、2007年（平成19年）川口市議会議員選挙で初当選。

2011年・2015年・2019年の川口市議会議員選挙で再選。現在4期目。

川口市議会「立憲民主党・新風会」所属。

【所属委員会】◎環境経済文教常任委員会 ◎地域活力・市民生活向上特別委員会

【保有資格】◎社会保険労務士 ◎宅地建物取引主任者



2. 小中学校の「教材費」無償化を

小中学校において、保護者から徴収している年間数万円にもなる「教材費」を無償とすべきです。

学校は、教材費で各種テスト、色画用紙、ファイル、各種ドリル、資料集、コピー用などを購入していますが、これらはどれも授業に必要不可欠な教材ばかりです。

義務教育課程で、どの子にも経済的事情に左右されることなく教育を提供するのであれば、『義務教育は無償』の観点から、これらの費用は行政が負担すべきだと提案しています。

3. 第二子以降の保育料無償化を

子育て世帯にとって、高い保育料は非常に深刻な問題です。最大で月額7万円もする保育料の負担軽減をすべきだと思います。深刻な少子化に歯止めを少しでもかけるためにも、第二子以降の保育料は、無条件で無償とすべきだと提案しています。

4. 高校卒業時までの医療費無償化を

未来を担う子どもたちが少しでも不安な時期は、安心して医療を受けられる体制を子育て世帯に提供するため、医療費無償化の対象を高校卒業まで無条件で提供すべきと提案しています。

5. 児童手当の所得制限の撤廃を

施策として出生数を増やしたいのであれば、どの世帯の子どもにも児童手当を支給して、広く子育てを応援することこそ必要なはずです。

児童手当は国の制度のため、一義的には国の責任ではありますが、川口市が率先して独自にでも所得制限の廃止に取り組むことを提案しています。

コラム



～子育て支援は全世代のため～

なぜ子育て支援にこだわるのか？

それは、子育てしやすくなり出生数が増えれば、より深刻化する高齢者の年金・介護・医療などの問題も改善できるからです。現に、年金や医療を支えている中心は現役世代です。

少子化は現役世代が減ることになり、将来の年金や医療にも打撃となります。

ですから、年配者の皆さんにも子育て支援策にご理解をいただきたいのです。

社会に子どもが増えて悪いことはありません。社会を活性化させて、力強く動かすことができるのも未来を担う子どもたちです。わたし木岡は、子育て支援にこだわり続けます。

川口市の財政状況について知ってください。

川口市の財政状況は、決して裕福とは言えませんが、市民サービスを十二分に向上させることができるだけの余力はあります。その余力を、どの分野に優先的に配分するかが市政に問われています。

事業の優先順位と内容を見直せば、**子育て支援策や高齢者支援策の充実を**図る予算は確保できます！

現市長は、川口駅への中距離電車の停車であったり、時代に対応していない街路整備事業であったり、代替策が考えられる市立美術館構想など、旧来型の箱モノ行政と言える施策に優先的に予算配分しています。

わたし木岡は、こうした時代錯誤の行政は転換し、子育てや高齢者の暮らしやすい街づくりに優先的に予算配分すべきだと考えております。

事業計画を見直せば、「子育て・高齢者支援」の財源は作れます！

！ 木岡の提案その1 《川口駅への中距離電車の停車にかかわる川口市の費用負担について》

● 線路もホームも川口市が全額負担 300 億円～ 400 億円 ●

現市長は、川口駅に中距離電車を止めようとしておりますが、わたし木岡の質問で、新たな線路やホームの建設費用を全額川口市が負担することが明らかになりました。川口駅は、川口市の街の顔ともなり得る場所ですから「行政財産を1円も出すべきではない」とは思いませんが、鉄道事業者が営業活動をする線路やホームを、全額、川口市民の税金で建設する必要があるのでしょうか。その費用も300億円とも400億円とも言われています。川口市の一般会計予算は年間約2100億円。400億円はその2割に相当し、一自治体が負担するには大きすぎます。この事業の在り方を見直せば、財源は作れます！

！ 木岡の提案その2 《街路整備事業の見直し》

● 時代のニーズに合わない街路整備事業に 300 億円以上の税金 ●

川口駅を中心とした道路を整備する街路整備事業という事業があります。私が生まれる前の60年以上も前に計画された事業ですが、時代のニーズや車の所有形態までもが変化している現在においてもなお、長期間未整備となっている事業です。にもかかわらず毎年数億円～十数億円の税金が投じられております。さらに、完成までには300億円以上の税金が必要と言われているのです。この事業の在り方を見直せば、財源は作れます！

！ 木岡の提案その3 《市立美術館構想について》

● 建設費だけでも 30 億円!? ●

市立美術館構想は、建設地が決まらず現在迷走しておりますが、建設基本計画で示された必要面積を建築しようとするれば、最低でも20億円、美術館のような特殊建築物となれば30億円を超えると指摘されています。

さらに美術館は建設して終わりとはなりません。維持・管理に多額の費用がかかることは全国の美術館の例から明らかです。優先して税金を投入すべき施策とは思えません。この事業の在り方を見直せば、財源は作れます！